

第1回 都市計画道路田辺旭ヶ丘線再評価委員会 議事要旨

平成29年2月15日（水）14:00～15:30

フローラルセンター 3F 会議室

■開会からの流れ

<事務局>

- ・配布資料の説明
- ・事務局の紹介
- ・柏原市都市デザイン部職員紹介
- ・委員の皆様の自己紹介
- ・中野市長あいさつ
- ・委嘱状交付
- ・委員長の選出
- ・都市計画道路田辺旭ヶ丘線再評価の審議内容の説明



資料、資料

— 質疑応答 —

<柳原委員>

- ・環境への配慮項目について、騒音対策は対策の一例として提示しているだけなのか、環境アセスメントを実施する予定があるのか、どちらか。
- ・生活道路の改善ニーズが高いとされているが、当該区間は生活道路としての位置づけなのか、住民ニーズに合致するものなのか。柏原市民に対するメリットとしてはどのようなことがあるか。
- ・段階的な整備というのは、どういう段階を想定しているのか。

<事務局の回答>

- ・騒音等の対策については、環境アセスメントを行うのは大規模事業であり、この事業は対象ではないと認識している。対策として、高機能舗装や遮音壁を考えている。
- ・当該区間の位置づけは、バイパス機能が第一であると考えている。バイパスができることで、渋滞で麻痺していた市の機能が回復し、地域の活性化につながると考えている。東西の連絡性が向上し、市の行き来が便利になることも、大きなメリットである。
- ・段階的整備については、現在、東側には2車線の現道があるが、西側は道路が全くない状態。西側を整備すれば、自動車は通れないにしてもヒトの行き来は便利になると考えており、先行して西側を整備したい。

<田中委員>

- ・道路事情が悪いとのことだが、事情というのは、具体的にどのようなことを指すか。
- ・渋滞緩和等の効果に関して、何か社会実験をするとか、想定されているか。

<事務局の回答>

- ・意識調査を実施する段階では、事情の具体的な内容には踏み込んでいなかった。広い意味で、狭い道路が存在することや、東西方向が渋滞するといった諸問題を表しており、市民も同様の問題として捉えているものと認識している。
- ・社会実験については、今のところ考えていない。ヒトとクルマが混在するところを分離させることにより、歩行者の安全性が向上したり、自動車の速度が上がることにより交通流が円滑になるという観点で、効果が発現するものと考えている。

<田中委員>

- ・自動車を運転する側、歩く側では、事情に対する捉え方が違い、それぞれの立ち位置があると思われるため、そのあたりをクリアにする必要がある。
- ・道路に名前をつけることで愛着が持てたり、道路整備に住民を巻き込むような取り組みが必要。
- ・渋滞緩和等の効果はもちろん見込まれるが、クルマ中心の考え方であり、住民との係わり合いも大切にしていけるべき。

<井上委員>

- ・国道 25 号、165 号につながる道路として、渋滞緩和に寄与することを期待している。
- ・医療面においては、迅速に患者を搬送するという課題に対して、その時短効果は大きいものだと考える。
- ・平成 44 年に完成するという目標に対し、とても長いスパンであるが、概ねのスケジュールは何か考えているか。
- ・当該区間の維持管理にどれだけ配慮されているのか、考えがあれば、伺いたい。

<事務局の回答>

- ・事業認可を受けた通りに事業を推進するのが本来であるが、近年の財政状況を踏まえながら、毎年少しでも前向きに取り組み、事業を進める最低限の事業費を投じていく計画で、平成 44 年完成となる予定である。この目標は最低限であり、それでも費用便益比は 2.0 を超えることを確認しているが、1 年でも早く事業を進めたいと考えている。

- ・道路の維持管理については、現時点では十分対応可能な範疇であると考えている。また、維持管理をする局面に差し掛かったときに、管理しやすいための工事を進めていきたいと思う。
- ・道路の維持管理計画の観点で、橋梁や舗装、付属施設の長寿命化を図る際には、一般的にライフサイクルコスト最小化を目指すこととされているが、本市においても、その考え方を踏襲している。

<後藤委員長>

- ・今回の事業については、ライフサイクルコストの試算はされているか。

<事務局の回答>

- ・基本的には、費用便益分析マニュアルによる算出方法に則り算定している。
- ・検討期間を 50 年間としており、その中で、維持管理費はそれほど高くならない試算である。

<柳原委員>

- ・これは要望になるが、歩行者のバリアフリー化について、現況は歩道内で歩行者と自転車が混在している状況にあることから、これらを分離させられるような対策を検討していただきたい。

<事務局の回答>

- ・自転車レーンの設置に関しては、今後の検討課題であると考えている。所轄警察からは、自転車は基本的に車道を走らせるよう指導を受けているが、地元住民からのご意見等の地域の状況や、警察、接続道路との道路管理者様等、各関係機関と協議をしていくことで、今後検討していきたい。

<田中委員>

- ・バリアフリー問題に関して、当該地域の高齢化率や小学校区のエリア、コミュニティの有無、位置情報等を、J-stat 等の基礎的な統計データから、小地域別で分析することが可能である。
- ・統計情報をとりまとめたうえで、どういった方が、当該区間の歩道を利用されるのか、情報収集されたい。

～その他、意見なし～

<後藤委員長>

- ・ 次回の委員会までの検討課題は、以下 3 点。
 - ①周辺地域の高齢化率や小学校区等の具体的な統計データの整理
 - ②住民との関わり、地域に根付く道路とするための整備方針（案）の提示
 - ③歩道部のバリアフリー化、路面のカラーリング等の検討

■閉会

<事務局>

- ・ 奥田副市長による閉会のあいさつ
- ・ 次回の委員会開催時期は、現時点で 4 月中旬か 5 月頃を予定している。具体的な日程調整については、追って事務局より連絡する。

以上